

2021 年度 理工学部 FD 活動報告

理工学部 2021 年度 FD 委員会委員 吉田敦

理工学部の 2021 年度に実施した FD 活動は以下の通りである。

1. 当初計画

- (1) FD 報告会の開催
学部教員全員を対象とする FD・自己点検報告会を開催する。
- (2) FD 講演会の開催
外部講師を招いて FD 講演会を開催する。コロナ対応の状況に応じて昨年のように学内での情報交換の場とすることもあり得る。
- (3) 教育活動の評価
教育活動の評価を行い、優れた授業を行うなど、学部の教育に貢献のあった教員を表彰する。
- (4) 「学生による授業評価」の実施結果の分析
2017 年度から開始した、授業評価アンケートの理工学部独自の設問の回答について、2021 年度の回答と合わせて分析を行う。
- (5) 教員相互の授業参観の促進

2. 2021 年度活動内容

- (1) FD 自己点検報告会を 2022 年 3 月 9 日 13:00~13:20 に Zoom によるオンラインで開催した。FD 委員の吉田が講師となり、授業評価の分析結果について報告した。参加者数は 31 名であった。
- (2) FD 講演会を、(株)リクルートから講師を招き、次の通り 2 回開催した。それぞれ Zoom によるオンライン開催であった。
 - 2021 年 10 月 13 日 15:40~17:10 (参加者 35 名)
 - 2021 年 10 月 27 日 17:30~19:20 (参加者 36 名)1 回目は、理工学部を取り巻く状況を理解し、理工学部の広報における課題について議論を行なった。特に、高校生や高校教員からどのように理工学部が見られているかという点が示された。2 回目は、課題を解決するために、どのようなターゲット層を設定するのか、また、どのようなことを高校側に伝えるべきかといったことが議論された。
- (3) 教育業績の表彰は、「プログラミング基礎」のオンライン対応を評価して本田教授、

横山教授、張准教授、横森准教授、大月講師を対象とし、また、微積分学の教科書の出版を評価して小藤教授を対象として実施した。

- (4) 2021年度に実施した全学「学生による授業評価」(Q1～Q4)について、理工学部科目のデータを用いて、2020年度との比較、オンライン授業に関する問題の有無、理工学部独自の設問と他の設問との相関の確認を行なった。2020年度との比較では傾向としては特に変化がないことを確認した。オンライン授業に関して、教員の画面の切り替えのミスや文字の読み難さ等の指摘があったが、大きく問題となるものはなかった。理工学部独自の設問は他の設問との相関が低く、独自の情報を得られていることを確認した。
- (5) 相互授業参観促進方法の提案には至らなかった。

3. 2021年度活動の成果

今年度もコロナ禍は続いており、受講生の多い授業はオンラインで行なわれたが、学生と教員の双方も慣れてきて、大きな問題はないことが確認できた。また、画面の切り替えミスの指摘などから、学生の方はより質の高い授業運営を求めていることが伺え、その点を共有した。FD講演会では、外部講師を迎えて、理工学部の受験の状況を確認するとともに、広報戦略をどのように行うべきか議論を行なった。理工学部を売り込むターゲット層やどのような点を説明するべきか、また、学部教員はそのために何をすべきかなどがより明確になり、学部としての意思統一が行えた。授業相互参観については、オンライン授業も多いこともあり、推進には至らなかった。引き続き検討が必要である。